

令和 3 年 5 月 31 日現在

機関番号：12301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2020

課題番号：15K20798

研究課題名（和文）子育て力のコミュニティ・エンパワメントを促す参加行動型研究

研究課題名（英文）Community-based participatory research that promotes community empowerment of child care ability

研究代表者

松井 理恵 (Matsui, Rie)

群馬大学・大学院保健学研究科・助教

研究者番号：60736263

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、保健推進員のセルフ、ピア・エンパワメント及び、コミュニティ・エンパワメントにおける変化とそれに関連した促進要因・抑制要因を明らかにし、協働モデルを作成することである。第一段階は、既存の一次文献の記述の質的統合を行い、保健推進員のエンパワメントを説明する仮説的な枠組みを示した。第二段階は、保健推進員と保健師を対象にインタビュー調査を実施し、協働モデルおよび、実践に用いるためのガイドを作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

保健推進員のエンパワメントを通じた子育て力のコミュニティエンパワメントを促す協働モデルの作成にあたり、まず既存の一次文献の記述の質的統合から、保健推進員のエンパワメントを説明する仮説的な枠組みを示した。そのうえで実際にインタビュー調査を行ったことで、先行研究の知見を踏まえたモデルとなった。本モデルは、保健師と保健推進員の協働活動の実践の手引きとなり、それに伴う保健推進員や地域のエンパワメントのアセスメント、評価に活用できると考える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the changes in Community health workers' self, peers, and community empowerment and related facilitating and restraining factors, and to create a collaborative model. The first step qualitatively integrated the description of existing primary sources and provided a hypothetical framework for explaining the empowerment of Community health workers. In the second stage, an interview survey was conducted with Community health workers and Public Health Nurses to create a collaborative model and a guide for practical use.

研究分野：地域看護学

キーワード：コミュニティエンパワメント 保健推進員 協働モデル

1. 研究開始当初の背景

わが国では、かつて地域社会生活を支え合うものとして、自治会や愛育班等住民組織を作り、それを受け入れてきた。しかし少子化、核家族化、地域のつながりの希薄化により、住民組織活動は衰退傾向にあり、地域の基盤は脆弱化してきている。一方、母親は育児の中で感じるさまざまな不安に対し、気軽に相談して支援を受けることが難しく、孤立した育児により、育児の負担感や困難感を持つことが多くなっている。このような状況に対応するため、厚生労働省地域子育て支援拠点事業¹⁾では、平成 25 年度より「地域機能強化型」として、世代間交流や訪問支援、地域ボランティアとの協働などの実施、地域での子育て支援の基盤の構築・再生を目指す、「地域支援機能」の項目を付加している。これは、公的なサポートだけでなく、地域のつながりのなかで子育て支援を推進することが重要であることを意味しており、その中核となるのが、保健推進員の活動である。保健推進員は、子育て支援に関心や意欲のある一般市民を保健師が育成し、妊産婦、乳幼児等の訪問や相談等を協働するものである。保健師は地域の中で、子育て支援の整備されていない部分を、子育て家庭のニーズに合わせて、保健推進員と協働していくことにより、コミュニティ・エンパワメントを図り、地域の子育て基盤を強化していくことが必要である。

住民組織のコミュニティ・エンパワメントに関する研究では、コミュニティ・エンパワメントの構成概念の明確化²⁾等が報告されている。また、保健師の住民組織への支援として、ヘルスプロモーション推進のための保健師の支援過程の特徴³⁾を明らかにしたもの等があるが、このような研究は少なく、エンパワメントを促す保健師の協働モデルは明らかにされていない。

2. 研究の目的

地域における子育て支援を推進するために、人口中規模の一市町村において、保健推進員を中心とした子育て力のコミュニティ・エンパワメントを促すための参加行動型研究を実施する。その評価として、保健推進員のセルフ、ピア・エンパワメント及び、その地域のコミュニティ・エンパワメントにおける変化とそれに関連した促進要因・抑制要因を明らかにする。そのことから、行政保健師が行う子育て力のコミュニティ・エンパワメントを促す保健推進員への協働モデル案を提示する。

3. 研究の方法

(1) 先行研究の質的統合

フィールドにおいてエンパワメントの現象を観察するための前提として、地域の健康づくりにかかわる保健推進員のエンパワメントの様相を明らかにすることを目的に、既存の一次文献の記述をデータとし、質的統合を行った。

分析対象文献の選定

英文の文献検索には、MEDLINE、CINAHL を用いた。検索語は MeSH Terms を用い、保健推進員に対応する英単語として“Community health worker”、“Health promoter”、“health Volunteer”、“health aide”、“health agent”、“village health worker”に“empower*”をかけて検索した。絞り込み条件を「査読あり」「英語」とした。和文の文献検索には、医中誌 Web を用いた。検索語は“コミュニティオーガニゼーション AND エンパワメント”、“保健推進員”、“母子保健推進員”、“健康推進員”、“健康づくり推進員”、“保健ボランティア”とした。絞り込み条件を「原著論文」とした。英文 150 件、和文 113 件、計 263 件を抽出し、システムティックレビューの手法により、保健推進員のエンパワメントとその影響要因が記述されている質的研究論文 14 件（英文 4 件、和文 10 件）を選定した。

分析方法

分析対象となった 14 件の文献について、「保健推進員のエンパワメント(意欲向上や主体化等にかかわる思考・認識や態度・行動の変容)」および「エンパワメントに影響する要因」が記述されていると文献から読み取れる部分をそれぞれデータとして取り出し、それぞれ意味内容を損なわないようにコード化し、意味内容の類似性に基づき、サブカテゴリ、カテゴリ化を行った。そこから、保健推進員のエンパワメントを説明する仮説的な枠組みを提示した。

倫理的配慮

記述内容の分析および結果を記述する際には、個人名や機関名が特定されないように配慮した。

(2) 県内外の保健推進員の活動調査とモデル案作成

対象者

子育て支援活動の好事例である県内外 5 市町村を対象に、保健推進員各 4 ~ 6 名と、ともに活動する担当保健師各 1 名を対象とした。

調査方法、内容

研究に同意が得られた保健推進員に対し、60～90分程度のグループ面接を実施し、保健推進員と保健師の協働活動内容、活動を通じた保健推進員のエンパワメントについて聴取した。

研究に同意が得られた保健師に対し、60～90分程度の個別面接を実施し、地域の健康づくりについての考えや保健推進員の育成方針、保健推進員との協働活動内容、保健推進員のエンパワメントを聴取した。

分析方法

まず、事例毎に活動内容や経過を整理した。ア)地域の健康づくりについての考え/保健推進員の育成方針、イ)協働活動、ウ)保健推進員のエンパワメントについての記述をデータとして取り出しコード化し、意味内容の類似性に基づきカテゴリ化した。Gottliebら⁴⁾の協働的パートナーシップ螺旋モデルと、(1)で作成した保健推進員のエンパワメントを説明する仮説的枠組みを参考に、ア)、イ)、ウ)の関連性を検討しながら、モデル案を作成した。

倫理的配慮

調査対象者には口頭と文書で研究の趣旨目的、協力内容、個人のプライバシーの保護、協力の自由意志、研究終了後の資料・データの廃棄方法等について説明し、研究協力の同意は同意書の提出により確認した。所属の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

4. 研究成果

(1) 先行研究の質的統合

対象文献の概要

対象となった14文献の調査実施国は、国内9件、国外5件であった。保健推進員の活動内容は、健康づくり活動8件、母子保健活動3件、介護予防活動1件、HIV/AIDS活動2件であった。

保健推進員のエンパワメント

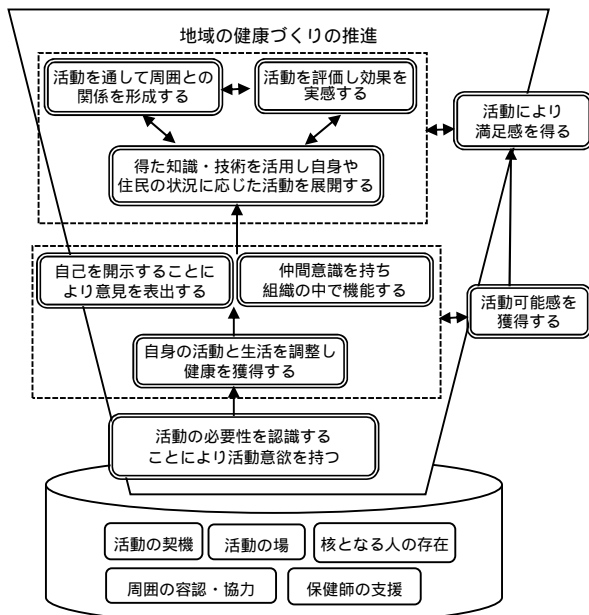
保健推進員のエンパワメントの内容は、140のコードから、28サブカテゴリ、9カテゴリ【活動の必要性を認識することにより活動意欲を持つ】【自己を開示することにより意見を表出する】【仲間意識を持ち組織の中で機能する】【自身の生活と活動を調整し健康を獲得する】【得た知識・技術を活用し自身や住民の状況に応じた活動を展開する】【活動を通して周囲との関係を形成する】【活動を評価し効果を実感する】【活動可能感を獲得する】【活動による満足感を得る】を得た。

保健推進員のエンパワメントに影響する要因

保健推進員のエンパワメントに影響する要因は68のコードから、18サブカテゴリ、5カテゴリ 活動の契機 活動の場 核となる人の存在 周囲の容認・協力 保健師の支援を得た。

保健推進員のエンパワメントを説明する仮説的枠組み

上記から、保健推進員のエンパワメントを説明する仮説的な枠組みを示した。



- は思考・認識や態度・行動の変容 → は発展
□ はエンパワメントに影響する要因 ↔ は相互作用

図 保健推進員のエンパワメントを説明する仮説的な枠組み

(2) 県内外の保健推進員の活動調査とモデル案作成

調査対象の概要

対象となった5自治体は人口約5万人～49万人の5市で、3市は母子保健推進員、2市は健康推進員の名称で育成していた。いずれも区長推薦により任命され、任期2年・再任有が4市、任期3年・再任無が1市であった。主な活動内容は、定例会、乳幼児宅への家庭訪問、健診補助等であった。対象となった24名の保健推進員は、40～70歳代の女性であった。5名の保健師の保健師経験年数は平均19.6年であった。

モデルの構成要素

ア) 保健師の地域の健康づくりについての考え / 保健推進員の育成方針

【地域住民の生活の様子から推進員の役割を検討する】【協働により捉えた地域の状況から育成方針や保健師の役割を再検討する】の2カテゴリが得られた。

イ) 協働活動

【保健師が研修や活動内容を提案し推進員が取り入れる】【互いに尊重し認めあうことで信頼関係を構築する】【目標や課題を挙げよりよい活動方法を話し合う】【役割分担しながら一緒に活動する】【意欲や能力を見計らいながらタイミングよく働きかける】【推進員が主体となって保健師はサポートする】【互いに地域とのつながりを作り活動基盤を強化する】の7カテゴリが得られた。

ウ) 保健推進員のエンパワメント

【活動の必要性を認識することにより活動意欲を持つ】【自身の生活と活動を調整し健康を獲得する】【仲間意識を持ち組織の中で機能する】【得た知識・技術を活用し自身や住民の状況に応じた活動を展開する】【活動を通して周囲との関係を形成する】【活動を評価し効果を実感する】【活動可能感を獲得する】【活動により満足感を得る】の8カテゴリが得られた。

最終年度には、人口中規模の一市町村において参加行動型研究を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症に伴う大学業務や、対象自治体との研究調整に困難が生じた。そのため、以上から、保健推進員のエンパワメントを促す協働モデルおよび、実践に用いるためのガイドを作成した。これにより、保健師と保健推進員の協働活動の実践の手引きとなり、それに伴う保健推進員のエンパワメントのアセスメントや評価に活用できると考える。

<引用文献>

- 1) 厚生労働省：地域子育て支援拠点事業。<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/gaido.pdf> (検索日：令和3年5月31日)
- 2) 中山 貴美子, 岡本 玲子, 塩見 美抄：コミュニティ・エンパワメントの構成概念：保健専門職による評価のための「望ましい状態」の項目収集。日本地域看護学会誌 8(2);36-42,2005.
- 3) 田口敦子, 岡本玲子：ヘルスプロモーションを推進する住民組織への保健師の支援過程の特徴。日本地域看護学会誌 6(2);19-27,2004.
- 4) LN Gottlieb, N Feeley, C Dalton, 吉本照子監修・訳：協働的パートナーシップによるケア - 援助関係のバランス。エルゼビアジャパン, 2007.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 松井理恵、佐藤由美、石丸美奈、宮崎美砂子	4. 巻 23(2)
2. 論文標題 地域の健康づくりにかかわる保健推進員のエンパワメントの様相	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 千葉看護学会誌	6. 最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20776/S13448846-23-2-P11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rie Matsui, Yumi Sato	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 Grandmother's support for new mothers in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Public Health Nursing	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/phn.12518	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 松井理恵、佐藤由美、石丸美奈、宮崎美砂子
2. 発表標題 保健推進員活動による保健推進員のエンパワメントの内容とその要因
3. 学会等名 日本地域看護学会第20回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松井理恵
2. 発表標題 住民組織の活動による変化に関する文献レビュー
3. 学会等名 日本地域看護学会平成27年度研究活動推進委員会主催セミナー
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松井理恵、石丸美奈、宮崎美砂子
2. 発表標題 地域の健康づくりを通じた保健推進員のエンパワメントー保健推進員へのグループインタビューから -
3. 学会等名 日本地域看護学会第23回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松井理恵、石丸美奈、宮崎美砂子
2. 発表標題 保健推進員との協働における課題や困難を乗り越えるための協働方法 保健推進員育成担当保健師の立場から -
3. 学会等名 千葉看護学会第26回学術集会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------